

4 ビジョンの環境を整える

■ ビジョントレーニングについて知る

ビジョンに関連するものを子どもが通る場所に掲示したり、コーナーに置いたりしました。日常生活の中でビジョンの大切さに気付かせるようにしました。



学年の発達段階に合わせた内容で作成しました。ビジョントレーニングを行う効果や簡単なトレーニングを紹介しました。毎日目にすることでビジョントレーニングが身近なものになってきました。



子どもが楽しくビジョントレーニングに取り組めるように、キャラクターを作って紹介しました。

■ ビジョントレーニングの体験

廊下や階段の踊り場に、子どもが気軽に取り組めるようなビジョントレーニングを「ビジョンチャレンジ」と名付けて掲示しました。足を止め、友達と一緒に取り組んでいる姿が見られました。

校舎内の様々な場所に設置



3階中央階段
「仲間をさがせ」



2階西階段
「体じゃんけん」



算数教室前
「棒でパズル」



3階6年教室前
「アルファベット速読」

楽しみながらいろいろなビジョントレーニングに触れられるように、定期的に内容を入れ替えました。掲示物だけでなく、実際に手に触れて操作するものもあります。

■ サポートルーム（通級）の教室

サポートルーム(※)の教室にある教材を全校の子どもが体験できるように、EYE♡TIME や中休みに教室を開放しました。体を使って体験するものや「ビジョントレーニングマシン」などがあります。

※町田市では、特別支援教室のことを「サポートルーム」の名称で呼んでいます。

児童写真

同じ形を作ろう

ブロックの見本を見て、同じように組み立てます。細かい部分までしっかりと見て完成させていました。

児童写真

ばらばら迷路

迷路がばらばらに切り離されています。先へ進むには同じシールが貼られた場所にワープします。跳躍性の眼球運動を意識しました。

児童写真

ナンバータッチ

数字を番号順にタッチしていきます。素早く眼を動かして手の動きにつなげました。

児童写真

文章迷路

迷路の中に書かれた文章をたどっていくビジョントレーニングを子どもたちは楽しみながら取り組みました。

児童の写真

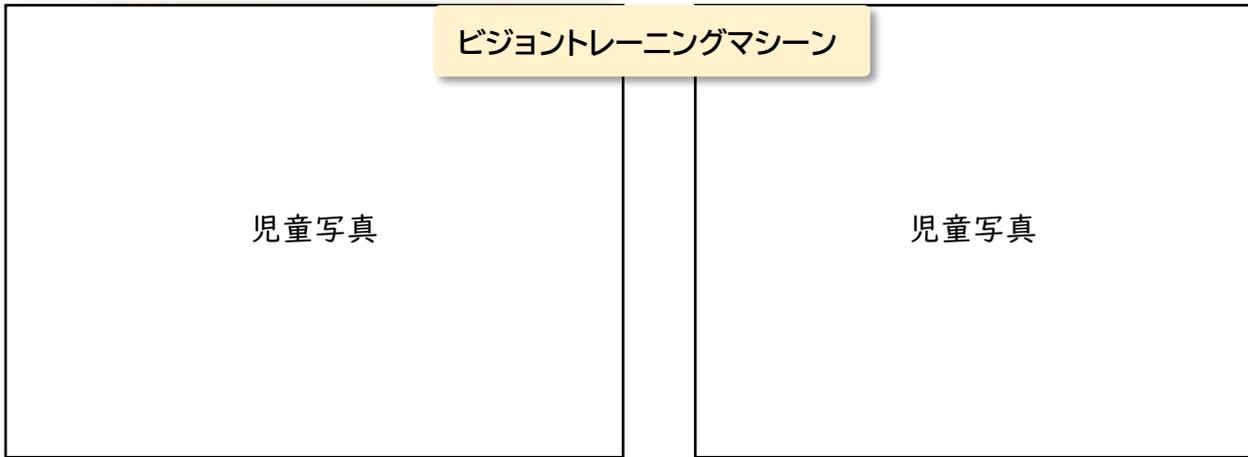
輪投げ

輪投げは楽しく取り組めるビジョントレーニングの一つです。距離感を掴むことや力加減が難しく、何度も挑戦する子どもが多く見られました。

児童写真

ドンジャンケン

「ドンジャンケン」は大縄を使うことで、縄から落ちないように足元を意識します。ビジョンを取り入れたジャンケンの工夫も見られました。



町二小には「ビジョントレーニングマシン」があります。ランダムに点灯したボタンを押し、光る速度を変えたり、同時に点灯する数を変えたりすることもでき、最後には得点が表示されます。子どもたちはワクワクドキドキ、楽しくビジョントレーニングに取り組んでいます。

■ ビジョンを支える教室環境づくり

ビジョンを支える教室環境づくりについての校内研修会を行い、「見る力」を伸ばすための教室前面の環境づくりについて校内での共通理解を図りました。また、特別支援教育の視点から授業の進め方についても話し合いました。

ビジョンを支える教室環境づくり

町田第二小学校 環境分科会

QJT 研修での配慮事項

- ① 授業の構造化
 - ・見通しのある活動を
- ② 視覚の制限
 - ・視覚的刺激を少なく
- ③ 色の配慮
 - ・落ち着いた色彩の使用
- ④ 情報の整理
 - ・過去の情報の整理
 - ・集中を促す情報提供のしかたを工夫

児童の視覚的な刺激を減らし、「見る力」を効果的に伸ばすためにも教室の前面の環境整備は必須です。町二小の共通認識として各教室の前面を構造的に考えていきましょう。

・プロジェクター使用時の板書計画を考える。
・過去の情報を映しっぱなしにしない。

- ・教室前面の掲示物は必要最小限にする。
(教育目標・学年や学級の目標等)
- ・掲示物はできるだけ刺激の少ない色が望ましい。(青・緑、または薄い色)。児童の刺激になる内容のものはできるだけ減らす。

教師用事務机の上は整理し、物を置きすぎない。ロッカーは目隠しするなどして整理する。

学習内容によっては、ホワイトボード等で、学習活動の見通しをもたせる。

- ・授業以外で黒板に書くもの、貼るものは必要最小限にする。
- ・眼に見えるものは、できるだけその授業の内容のものだけにする。

その他の配慮事項として

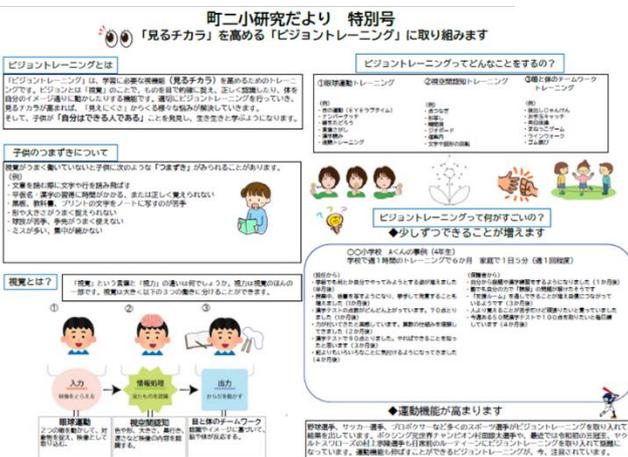
- ・児童の集中を促すためにも時計は教室の側面へ。
- ・集めたノート類やテストなどは整理して保管。
- ・掲示物の貼り方の工夫。

■ 家庭との連携

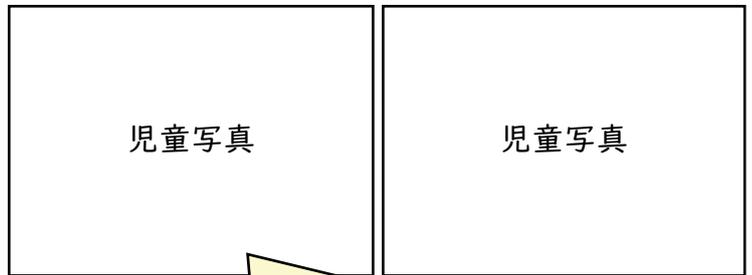
ビジョンは普段の日常生活の中でも鍛えることができます。普段の生活の中にちょっとした工夫を取り入れることで「見る力」は伸びるのです。この研究に取り組む背景、メリット、トレーニングの内容などを保護者に理解してもらうために次のようなことを行いました。

- ① 「研究だより」を6回配布
- ② 学校保健委員会で、スライドを使って、ビジョントレーニングについて説明
- ③ 「家庭で取り組めるビジョントレーニング」を夏休みや冬休みの前にお便りで紹介

①保護者向けのお便りの発行



②保護者への取組の紹介(学校保健委員会)



保護者からの感想・意見より

- ・各学年、様々なビジョントレーニングを行っていて驚いた。生活の中でも取り入れていきたい。
- ・眼を動かすだけでなく、運動や遊びの中でトレーニングができることが分かった。
- ・長期的に行うことでどのような効果が出てくるのか期待している。

③家庭でできるトレーニングの紹介例

○色探し・形探し

「赤いものは何個あるかな?」「丸い形は何個あるかな?」など質問します。車中や部屋、おせち料理の中など探す場所を変えると楽しめます。スーパーマーケットなど外出先でもできます。

○文字探し

1つの文字を決めて新聞の1面からできるだけ多く、その文字を探します。

○お手伝い

料理の手伝い、洗濯物をたたむ、洗濯ばさみではさんで干すことも眼と手を一緒に使います。洗濯物たたみコンテストや「まっすぐ雑巾がけ」や「まっすぐ掃除機かけ」など、楽しんでやれる工夫をすると効果があります。

○その他

- ・お手玉キャッチ ・ピンポンキャッチ ・後出しジャンケン ・ピンポンパン
 - ・両手で書こう ・もしもしかめよ ・まねっこゲーム ・新聞紙を切ろう
- など、長期休業前に家庭にお手紙で紹介しました。



④保護者向け教育講演会



学校で取り組んでいるビジョントレーニングにはどんな効果があり、具体的にどのような場面で生かされるのかを実技を交えて講師の丸節子先生にお話しいただきました。